











4/23(土) (激動)

熊本地震防災行動小口徑

家族5人。今日二人平手。

長男、21才、は重心障害者です。
父、重心障害者、12年間、通院し、

大変お世話になりました。その時の先生方。
お忙しいのに二度入室しました！

高木先生、面先生をために二人を殺す。
つぐく余輩の惡性、土砂災害。
つぐく過問、ヒン付の生活で
命を失う者に二三人へ！

毎日 つづく 余韻の 忍性、 土砂災害。
（清水） かは 怖く、 1週間、 セン竹の 生活で
長男、 植え替選を期に こへ！
（清水） お江ほしての
（清水） お江ほしての

六〇. ははく障害者、熊本
県精神疾患・精神健育
院

地震があつてから日々は、1日1日が
苦痛でしかたがいなかった。震度7度だった時は
生き残り地殻が壊かれた。
今の今まで本当にあつてあつてきつすぎた
けど、今こうして温かいココに立派ないれてくれて
感謝しています。本当にありがとうございます。

温乃

4/23(±)

4/14地震があさ普通の生活から一変、体験できないこと、たくさんの人たちの支え温かさを感じた。
帰る家へきて、食べたい時に食べたい切手食ふ、会いたい人に会ふ、そんな当たり前に十分、できぬいもじかし、時間の大切さ日々の幸せがどれだけ大切かを知る。長男がいてくれてとても感謝です。ここに入れて下さって本当にありがとうございます。